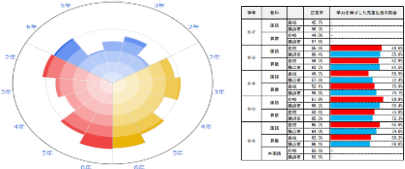


学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①誰もが安心して取り組める授業づくりをするために、教室環境の整備や教具、教材の開発、選択式課題設定など、特別支援教育の視点を取り入れる。②TTや教科担による授業サポート体制を組む。③外部機関との連携をとり、支援内容を明確にする。
担当	重点研推進委員会

学力向上に関わる本校の状況



令和7年度の小学校3年生から6年生にかけて、本校では正答率では市平均を下回る学年・教科が見られる一方で「学力を伸ばした児童の割合」においては成果が表れている。特に令和7年度の5年生では、中学年までに課題であった読解力や数量関係の理解が確実に改善している。基礎的な知識・技能の定着を土台として、学年が進むにつれて力を伸ばす児童が増えている点は本校の特長である。令和8年度は、この「伸び」に着目した指導の充実を図り、さらに確かなものにするために、低・中学年から思考力や表現力を意識した学びを積み重ねていく。

学力向上に向けた本校では、重点研究会テーマを「自分の思いや考えを豊かに伝え合おうとする子の育成～主体的に学ぶ力を育む算数科の授業改善～」としてきた。児童の実態に合わせた指導の展開を目指すとともに、指導者のキャリアステージに合わせた授業改善の取り組みを進めてきた。令和8年度は、よりきめ細やかに児童の実態に合った指導を展開するために、「特別支援教育の視点」を中心に据え、児童の実態に合った指導・支援の展開や児童が学びの場や方法を選んだりすることを試みることで、学力向上の取組を進めていきたい。

今年度の目標

①「特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり」を通して、「誰もが安心して取り組める授業づくり」を進める。②児童の基礎的な知識の土台形成や思考力・読解力の向上のために、読書活動に取り組む。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	<ul style="list-style-type: none"> ○「誰もが安心して取り組める授業づくり」を教師が中心となって進める。 ・例えば、児童の思考を促す問題提示や発問、小グループ学習等の協動的な学習、見やすい掲示物や授業の構造化、ワークシートの工夫などの学びの環境を整える。 ○児童が主体となった「児童が選択できる学びの工夫」に取り組む。 ・例えば、自分に合った学習方法を児童が選択し、学習の目標に向かって主体的に取り組んだり、同じ学習内容でも自分なりの目標をもって学びを進めたりする。 ○学校図書館来館者を増やす取組を進め、児童が本を手取る機会を増やす。 ○「子ども読書の日」やYomokka!!も活用し、本に親しむ機会を増やす取り組みをすすめる。 ○読書によって身に付けられる資質・能力を、「語彙力」「読解力」「表現力」「知的好奇心」と捉え、読書をする楽しさや本に触れる喜びを体感しながら、継続的な読書ができる環境づくりをすすめる。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的な「誰もが安心して取り組める授業の工夫」を継続する。 ○効果的な「児童が選択できる学びの工夫」を継続する。 ○「読書週間」の取り組みを進めるとともに、季節に合わせた読書を提案することで、児童が多様な本に触れ、読書経験を広げる機会を設定する。 ○読書を続けてきた自分の取り組みを記録したり、ふり返ったりして、今後の読書の目標を立てるなどをして、読書の楽しさを継続できるようにする。